

2. 委員の交代

令和2年度第10回人材育成運営委員会

日時 令和3年3月1日から2日（メール会議）

- 議題
1. 特別聴講生審査委員会の設置
 2. 新型コロナ感染防止対策

令和2年度第11回人材育成運営委員会

日時 令和3年3月22日から23日（メール会議）

- 議題
1. 特別聴講生審査委員会の設置
 2. 特別聴講生審査

4. 2 対外的発表

令和2年12月 中高生のための研究キャリア・サイエンス冊子「someone」vol.53
に掲載

5. むすび

8大学および4研究機関（研究開発法人・国の機関）で発足した本火山研究人材育成コンソーシアムは、令和3年3月31日現在、16大学、4研究機関（研究開発法人・国の機関）、9地方自治体、3学協会、4民間企業から構成されている。受講生も各大学から本プログラムに参加し、幅広い人材の育成を進めている。

本プログラムも5年半実施し、2年間で履修が完了する基礎・応用コースの教育プログラムは二回りした。火山学実習は順調に実施され、他大学授業や火山学セミナーの遠隔からの受講システムも大きな問題なく機能している。また、研究開発法人・国の機関でのインターンシップも毎年行われている。このように、基本的なプログラムは順調に実施され、次世代火山研究・人材育成総合プロジェクト令和元年度中間評価では、本コンソーシアム構築事業の総合評価は非常に高く評価された。

これまで基礎・応用コースを修了し火山研究や監視に関する機関、地球科学や防災に関する企業、中学高等学校に就職した人数は、55名の受講生の3分の2ほどになり、火山研究や防災に関する人材として社会での活躍が期待される。平成31年度からはじまった発展コースでは、地方自治体の職員も交えた火山防災特別セミナーのほか、シンガポール国南洋理工大学EOSとの共同ワークショップなど、国際的な活動も実施された。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けた。新型コロナウイルス感染症の拡大により、外国機関と連携して昨年度まで実施してきた海外研修（イタリア国ストロンボリ山のフィールド実習、アジア火山学コンソーシアムによる研修）が中止となった。しかしながら、前期のセミナーや各大学の講義は、対面授業は行えなかったが、本プログラムでは当初から遠隔授業の体制を整えていたことから、大きなトラブルもなく比較的スムーズにオンデマンド・遠隔リアルタイムの授業を提供することができた。昨年か

ら開始した火山研究特別セミナーについては、シンガポール南洋理工大学の協力を得て、オンラインで実施することもできた。また、国内の火山学実習については、各大学・機関の新型コロナ感染症の予防対応策を参考にして、宿泊方法や講義・実習の実施方法、事前・事後の健康管理等に関する指針を作成し、できる限り感染防止策をとった上で実習を実施した。現在（令和3年4月）も新型コロナウイルス感染拡大が収まっておらず、次年度も海外研修などを受講生に提供することは難しいのが現状である。代替措置として平成12年有珠山噴火時の火山観測や社会対応に関するセミナーを現地で開催することを企画している。新型コロナウイルス感染の状況をよく注視しながら、受講生にできる限り魅力的な授業を提供できるよう工夫を凝らしていく予定である。